

介護職員初任者研修に係る研修事業者・研修事業情報

情報の種類	内容
研修機関情報	<p>法人情報</p> <p>法人格・法人名称・住所等 株式会社日本教育クリエイト 東京都新宿区西新宿1-23-7 新宿ファーストウエスト</p> <p>代表取締役 鳥居敏 研修事業担当執行役員 松本義正</p> <p>理事等の構成、組織、職員数等 代表取締役1名、取締役6名、監査役1名 計8名 北海道、宮城、東京、神奈川、千葉、埼玉、静岡、愛知、大阪、兵庫、福岡、沖縄に支社を持ち、従業員約1,800人を有する</p> <p>研修機関情報</p> <p>事業所名称・住所等 株式会社日本教育クリエイト 大阪支社(スクール名:三幸福祉カレッジ) 大阪府大阪市北区梅田1-2-2 大阪駅前第2ビル15F</p> <p>理念 【経営理念】技能教育と技能を生かす場を提供することにより、人と社会に貢献する。 【教育理念】技能と心の調和</p> <p>学則 別紙「学則」参照</p> <p>研修施設、設備 ・JR奈良教室(奈良件奈良市杉ヶ町32-4プレスト一番館3F301 ※各教室に介護用ベッド、車いす、ポータブルトイレ、浴槽、その他演習に必要な介護用品を設置</p>
研修事業情報	<p>研修の概要</p> <p>対象、研修受講までの流れ(募集、申し込み)、費用 別紙「学則」参照</p> <p>研修のスケジュール(期間、日程、時間数) <a href="https://www.sanko-fukushi.com/form2/schedule/index/">https://www.sanko-fukushi.com/form2/schedule/index/</a></p> <p>定員 20名 指導者数 11名 受講料:49,500円(テキスト代含む、消費税込)</p> <p>留意事項、特徴、受講者へのメッセージ等 介護に関する必要な知識・技術はもとより、最も重要な福祉の心について座学・演習を通じて学習していただきます。修了生像は「自ら考え、自ら行動できる介護従事者」であり、日々小さな変化に気付き、配慮・感動できる「福祉の心」の育成を目指します。 研修終了後、希望者に対し職場体験・見学実習を手配しますので、1人でも多くの方が即戦力として福祉現場で活躍されることを望んでいます。 現場での経験豊富な講師陣が授業を担当しますので、介護に関する不安なことは気軽にご相談ください。</p> <p>研修カリキュラム 修了評価</p> <p>別紙「シラバス」、「講師一覧表」、「通信添削指導の方法」、修了評価の方法」参照</p>
講師情報	別紙「講師一覧表」参照
実績情報	過去の研修実施回数(年度ごと) 2020年度:5回 2021年度:5回 2022年度:4回 過去の研修延べ参加人数(年度ごと) 2020年度:51 2021年度:60 2022年度:36
連絡先	<p>申し込み・資料請求先 株式会社日本教育クリエイト 大阪支社(スクール名:三幸福祉カレッジ) 大阪府大阪市北区梅田1-2-2 大阪駅前第2ビル15F ナビダイヤル:0570-015-350 / TEL:06-6131-8062/FAX:06-6131-5108</p> <p>法人の苦情対応者名・役職・連絡先 株式会社日本教育クリエイト大阪支社 支社長 伊藤誠 TEL:06-6131-8062</p> <p>事業所の苦情対応者名・役職・連絡先 株式会社日本教育クリエイト大阪支社 支社長 伊藤誠 TEL:06-6131-8062</p>

1.開講の目的	高齢社会を迎え、多様化するニーズに対応した介護サービスを提供するため、専門的な知識、技術を有する介護員の養成が急務とされている。そこで、当社としても地域の福祉に貢献するため、介護員の養成を行うものである。
2.研修事業の名称	株式会社日本教育クリエイト 三幸福祉カレッジ介護職員初任者研修
3.実施場所	三幸福祉カレッジJR奈良教室 奈良県奈良市杉ヶ町32番地4 ブレスト一番館3階
4.研修期間	標準研修期間はおおむね4ヶ月とし、8ヶ月まで受講を延長することができる。
5.研修日程	<a href="https://www.sanko-fukushi.com/form2/schedule/index/">https://www.sanko-fukushi.com/form2/schedule/index/</a>
6.講師氏名	講師一覧表（学則別添1）のとおり
7.修了評価方法  (修了評価者、修了証明書の交付手続き等)	全科目の出席及び通信添削課題の評価及び「9.こころとからだのしくみと生活支援技術」の中での、講師による受講生の知識・技術等の習得度の評価も勘案した上での修了評価課題（100点満点中60点以上で合格）をもって修了を決定する。 修了評価課題および通信添削課題の評価の結果、60点未満の場合には、補講を行った上で、再評価（100点満点中60点以上で合格）を行う。 修了評価の方法については、学則別添2のとおり。 認定方法：全カリキュラムの履修を修了した者は、修了申請を提出する。修了を認定した者には修了証明書を郵送にて交付する。
8.募集時期及び開講時期	募集時期：実施計画書提出後、30日経過後～開講日1週間前 残席があり受入可能な場合は、前日まで受付をする。 募集期間中であっても、定員に達した場合はその時点で受付を終了する。 開講時期：研修日程表（第3号様式）のとおり。
9.受講資格  受講定員	・介護サービスに従事することを希望する者、従事することが確定している者、または既に従事している者。 ・講義、演習に継続して出席できる、演習を含む全ての課程を修了することが可能なもの者。 ・義務教育を終了している者。 ・受講定員は、各クラス20名とする。
10.受講手続	【募集方法】 ・ホームページ ・インターネット広告 ・新聞折込等チラシ等にて、募集を行う。 【受講手続】 1) 受講希望者はいずれかの方法で申込をする。 ・所定の申込用紙に必要事項を記入の上、郵送・FAXにて申込み。 ・電話の場合は、必要事項を聞いた上で申込み。 ・当校ホームページよりオンラインで申込み。 ※申込は先着順で定員に達し次第締切りとする。 2) 当校は、申し込み内容確認後、教材と受講料支払いのための書類を受講者へ送付する。 3) 受講者は、期日までに入金をした上で、通学を開始する。 【本人確認】 ・実施要領に定められた本人確認書類（健康保険証、運転免許証、住民票、パスポートいずれか）を持参し、初回授業時に講師が確認する。
11.使用テキスト	長寿社会開発センター 介護職員初任者研修テキスト
12.研修受講に関する連絡先及び担当者名	氏名：平野千恵 所属名：株式会社日本教育クリエイト 大阪支社 連絡先：06-6131-8062 JR奈良教室電話番号：0742-27-5101

13.受講料、実習費	<p>受講料：49,500円(テキスト代含む、消費税込)</p> <p>※実習費：なし(実習を行わない)</p>
14.研修欠席者に対する補講の実施方法及び補講に係る費用等の取扱	<p>【欠席の扱い】</p> <p>やむを得ず欠席する場合は、事務所へ連絡し、振替の承認を得ることとする。遅刻・早退についても、原則欠席扱いとする。</p> <p>【補講の方法・費用】</p> <p>当校が同時期に実施している別コースにて振替補講を行う。</p> <p>なお、開講日より8ヶ月を受講有効期限とし、その期間を超えた場合は修了証の発行はできないものとする。</p> <p>振替補講に要する費用：無料</p>
15.研修機関が公表すべき情報の開示方法	<p>下記ホームページにおいて情報開示する。</p> <p>ホームページアドレス：<a href="http://www.nk-create.co.jp/">http://www.nk-create.co.jp/</a></p>
16.修了証明書の書き換え交付と再交付の取扱い	<p>修了証明書の交付を行った者から修了証明書の紛失又は毀損により再交付の申請があった場合は、修了証明書の書き換え交付を行う。また、記載事項に変更が生じた場合は、修了証明書の書き換え交付を行う。</p> <p>【手続き方法】</p> <p>書き換え及び再交付を希望する者は、三幸福祉カレッジへ連絡の上、再発行申請書を提出する。交付後、郵送にて送付する。</p> <p>書き換え及び再交付に係る費用：2,000円</p>
17.個人情報の保護について	<p>受講者の個人情報は下記の目的のみに利用し、他の目的には使用いたしません。ご提供いただいた個人情報は当校の個人情報保護規定に従い厳重に管理しております。</p> <p>①講座受講を円滑に行うため</p> <p>②受講中または受講後の就職または転職に関する情報提供、アンケート調査のため</p> <p>③受講中の講座カリキュラム、講師、講座運営に関するアンケート調査のため</p> <p>④三幸福祉カレッジの講座やその他のサービスに関する案内、資料送付のため</p> <p><u>プライバシーポリシー</u><a href="http://www.nk-create.co.jp/privacy/">http://www.nk-create.co.jp/privacy/</a></p> <p>なお、修了者は奈良県の管理する修了者台帳に記載される。</p>
18.返金規定	<p>受講者からのキャンセルの場合</p> <p>原則、教材到着後8日以内であればキャンセル可。</p> <p>振込等にかかる手数料を除いた金額を返金する。</p> <p>但し、8日以内であっても受講日を過ぎた場合はキャンセル不可。</p> <p>弊社からの開講中止の場合</p> <p>振込により全額返金。</p>
19.通信による実施方法	<p>通信添削課題配布後、自宅学習を開始し定められた通学日に提出する。60点以上で合格、59点未満の場合は、合格点に達するまで再提出をする。</p> <p>学習開始後、わからない箇所が発生した場合には、通学時に申し出る。担当講師より回答する。</p>
20.その他	<p>遅刻の取扱い：</p> <p>授業開始時間に研修事業実施施設に到着していない場合は遅刻 扱いとし欠席とする。その際は、当校が同時期に実施している別コースにて振替補講を行う。</p> <p>ただし、公共交通機関の遅延による15分以内の遅刻の場合は、遅延届を提出した者に限り、研修当日に遅延時間分の補講授業を行うことにより、科目履修完了とする。</p> <p>退校処分の取扱い：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の進行、他の受講生の学習を妨げるような行為があった場合</li> <li>・他の受講生・講師・スタッフなどに対して危害を与えるような行為、誹謗中傷等があった場合</li> <li>・故意に施設の設備又は物品を亡失、毀損又は施設外に持ち出した場合</li> <li>・自力で演習内容を行うことができない場合</li> </ul> <p>上記いずれかの行為があった場合、退校処分とし、その間に履修した当該研修については、全て無効とし、受講料の返金は行わない。</p>

講師一覧表

氏名	担当科目	保有資格
<p>中川まゆみ 山口博史 平山芳子 木村弘恵 小原いおり 瀧川暢之 北原悠介</p>	<p>1. 職務の理解 (1)多様なサービスの理解(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解 2. 介護における尊厳の保持・自立支援 (1)人権と尊厳を支える介護(2)自立に向けた介護 3. 介護の基本 (1)介護職の役割、専門性と多職種との連携(2)介護職の職業倫理(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント (4)介護職の安全 4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (1)介護保険制度(3)障害者自立支援制度およびその他制度 5. 介護におけるコミュニケーション技術 (1)介護におけるコミュニケーション(2)介護におけるチームのコミュニケーション 6. 老化の理解 (1)老化に伴うことからの変化と日常 7. 認知症の理解 (1)認知症を取り巻く状況 (3)認知症に伴うことと体の変化と日常生活(4)家族への支援 8. 障害の理解 (3)家族の心理、かかわり支援の理解 9. ことからのしきみと生活支援技術 【Ⅰ. 基礎知識の学習】 (1)介護の基本的な考え方(2)介護に関することからのしきみの基礎的理解(3)介護に関することからのしきみの基礎的理解 【Ⅱ. 生活支援技術の学習】 (4)生活と家事(5)快適な居住環境整備と介護(6)整容に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(7)移動・移乗に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(8)食事に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(9)入浴、清潔保持に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(10)排泄に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(11)睡眠に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(12)死にゆく人に関連したことからのしきみと終末期介護 【Ⅲ. 生活支援技術演習】 (13)介護過程の基礎的理解(14)総合生活支援技術演習 10. 振り返り (1)振り返り(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修</p>	<p>介護福祉士</p>
<p>水谷由紀子</p>	<p>1. 職務の理解 (1)多様なサービスの理解(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解 2. 介護における尊厳の保持・自立支援(1)人権と尊厳を支える介護(2)自立に向けた介護 3. 介護の基本 (1)介護職の役割、専門性と多職種との連携(2)介護職の職業倫理 (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント(4)介護職の安全 4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (1)介護保険制度(2)医療との連携とリハビリテーション(3)障害者自立支援制度およびその他制度 5. 介護におけるコミュニケーション技術 (1)介護におけるコミュニケーション(2)介護におけるチームのコミュニケーション 6. 老化の理解 (1)老化に伴うことからの変化と日常(2)高齢者と健康 7. 認知症の理解 (1)認知症を取り巻く状況(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理(3)認知症に伴うことと体の変化と日常生活(4)家族への支援 8. 障害の理解 (1)障害の基礎的理解(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識(3)家族の心理、かかわり支援の理解 9. ことからのしきみと生活支援技術 【Ⅰ. 基礎知識の学習】 (1)介護の基本的な考え方(2)介護に関することからのしきみの基礎的理解(3)介護に関することからのしきみの基礎的理解 【Ⅱ. 生活支援技術の学習】 (4)生活と家事(5)快適な居住環境整備と介護(6)整容に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(7)移動・移乗に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(8)食事に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(9)入浴、清潔保持に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(10)排泄に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(11)睡眠に関連したことからのしきみと自立に向けた介護(12)死にゆく人に関連したことからのしきみと終末期介護 【Ⅲ. 生活支援技術演習】 (13)介護過程の基礎的理解(14)総合生活支援技術演習 10. 振り返り (1)振り返り(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修</p>	<p>看護師</p>

研修カリキュラム・シラバス

科目	細目	時間数					講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
		計	講義		演習	実習	
			通学	通信			
1 職務の理解		(指導目標) (1) これからの介護が目指すべき、その人の生活を支えるケアの実践について、国の施策の動向、介護職としてあるべきイメージを理解する。 (2) 介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、働く現場や仕事の内容を具体的に理解する。					
	(1) 多様なサービスの理解	3	3	/	/	/	<講義内容> ・介護の社会化と介護保険制度の創設 ・介護保険制度における多様なサービスの概要 ・介護過程
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	/	/	/	<講義内容> ・介護職の仕事と働く場所 ・介護の業務 ・介護職員初任者研修の位置づけ
2 介護における尊厳の保持・自立支援		(指導目標) (1) 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを理解する。人権について理解する。 (2) 介護における自立支援、介護予防の基本的視点を理解する。					
	(1) 人権と尊厳を支える介護	5	1.5	3.5	/	/	<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り <講義内容> ・人間の尊厳の保持 ・ICF (国際生活機能分類) ・虐待防止・身体拘束禁止
	(2) 自立に向けた介護	4	0	4	/	/	<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
3 介護の基本		(指導目標) (1) 介護職に求められる専門性、異なる専門性を持つ他職種との連携の必要性を理解する。 (2) サービス利用者の生活に深く介入し、専門的な活動を行う介護職には高い倫理性が求められること、そのことを理解する。 (3) 質の高いサービスを提供するため、介護従事者に求められる安全管理体制を理解する。 (4) 介護職に起こりやすい健康障害、ストレスマネジメント、健康管理の在り方を理解する。					
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	0	1	/	/	<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
	(2) 介護職の職業倫理	1	0	1	/	/	<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0	1	/	/	<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
	(4) 介護職の安全	3	3	0	/	/	<講義内容> ・感染対策のための基本的知識 ・健康管理とストレスマネジメント
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		(指導目標) (1) 介護保険制度の目的、サービス利用の流れ、各種専門の役割・責務についてその概要のポイントを理解する。 (2) 介護職が実施可能な行為を知り、各職種との連携を円滑に行えるようにする。 (3) 障害者総合支援法制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを理解する。					
	(1) 介護保険制度	1.5	1.5	0	/	/	<講義内容> ・介護保険制度の創設の背景及び目的、動向 ・介護保険制度の仕組みの基本的理解 ・制度を支える組織・団体の機能と役割、財源 ・ケアマネジメント
	(2) 医療との連携とリハビリテーション	3.5	0	3.5	/	/	<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
	(3) 障害者総合支援法制度およびその他制度	4	0	4	/	/	<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
5 介護におけるコミュニケーション技術		(指導目標) (1) 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを理解する。 (2) チームにおけるコミュニケーションの有効性、重要性を理解する。					
	(1) 介護におけるコミュニケーション	3	3	0	/	/	<講義内容> ・介護におけるコミュニケーションの技法 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際
	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3	0	3	/	/	<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
6 老化の理解		(指導目標) (1) 加齢・老化に伴う五感の変化が日常生活に与える影響について理解する。健康の意義、個人と家族のライフサイクルについて理解する。 (2) 高齢者の身体的・精神的機能の変化と病気との関連、日常生活への影響について理解する。					
	(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	3	0	/	/	<講義内容> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴うからだの変化と日常
	(2) 高齢者と健康	3	0	3	/	/	<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通学	通信			
7 認知症の理解		(指導目標) (1) 認知症を理解することの必要性和「できること」に着目したケア・その人らしさを生かすケアを理解する。 (2) 認知症の定義、診断基準、治療の基礎知識について理解する。 (3) 認知症の人の行動・心理に関する症状の理解と症状に対するケアを理解する。 不適切なケアから生じる行動、心理症状を理解する。 認知症の人の気持ちを理解した上での生活支援の具体的な対応を理解する。 生活環境がもつ意味と役割、整備について理解する。 (4) 認知症の高齢者を介護する家族の負担を理解し、介護士として適切に対応できる。					
	(1) 認知症を取り巻く状況	1	0	1			<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1	0	1			<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
	(3) 認知症に伴うことからの変化と日常生活	3	3	0			<講義内容> ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の利用者への対応
(4) 家族への支援	1	0	1			<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り	
8 障害の理解		(指導目標) (1) 障害の概念とICF、障害の受容、障害者福祉の基本的な考えについて理解する。 (2) 三障害の特性について学習し、高齢者介護との違いを理解する。 (3) 障害のある人の家族の負担と支援を理解する。					
	(1) 障害の基礎的理解	1	0	1			<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎知識	0.5	0	0.5			<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り
(3) 家族の心理、かかり支援の理解	1.5	1.5	0			<講義内容> ・家族への支援	
9 ことからの体のしくみと生活支援技術		(指導目標) (1) 介護の心構えだけでなく、法律を意識した介護の在り方・理論にもとづいた介護を迫する姿勢が基本姿勢であることを理解する。自立した生活継続するためには、介護予防が重要であることを理解する。 (2) 加齢に伴って生じてくる心の変化や高齢者の心理を学び、高齢期のパーソナリティの変化や適応の仕方について理解する。 (3) 介護の専門職として必要な身体各部の名称、人体の骨格・関節・筋の働きを理解し、基本動作における実際的な動きとボディメカニクスを理解する。 (4) 利用者が望む衣食住の生活支援について学び、生活における家事支援の必要性を理解する。 (5) 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を理解する。 (6) 身なりを整えることの意味を理解し、基礎理論に基づいて利用者に必要な介護を部分的にすることができる。 (7) これまでの暮らしの中で自分自身の体位・姿勢変換がどのように行われていたかを理解し、介護が必要な人の体位・姿勢変換を基礎理論に基づいて介助することができる。様々な場面や利用者における移動・移乗を理解し、介護が必要な人の移動・移乗を基礎理論に基づいて介助することができる。安全で安楽な移乗・移動の介護を理解し、それに伴う補助具の特徴と使用方法を理解する。 (8) 食事をとることの意味を理解し、食事を取り巻く環境の調整ができ、基礎理論に基づいて介助することができる。 (9) 入浴やフットケアを取り巻く環境の調整ができ、安全な入浴方法を理解し、基礎理論に基づいて介助することができる。 (10) 排泄の意味を知り、排泄に関する心と身体の仕組みが理解され、基礎理論に基づいて介助することができる。 (11) 睡眠の意味と睡眠のリズムや種類、高齢者の睡眠の特徴、生理的变化をとおしてその仕組みを理解する。安眠のための支援を理解する。 (12) 様々な終末期の形があること、終末期の心身の変化について学習し、苦痛の少ない支援について理解する。 (13) 介護過程の基礎的理解ができ、自立に向けた介護計画の立案とは何かを理解する。 (14) 生活の各場面での介護について一連の生活支援を提供する流れを理解し、技術及び心身の状況に合わせた介護を提供する視点を習得する。					
I 基本知識の学習						(10~13時間程度)	
(1) 介護の基本的な考え方	4	1.5	2.5			<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り <講義内容> ・介護の基本的考え方 ・重度化防止の視点	
(2) 介護に関することからの体のしくみの基礎的理解	4	3	1	0		<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り <講義内容> ・高齢者の心理 ・自己実現と生きがいづくり	
(3) 介護に関することからの体のしくみの基礎的理解	5	4	1	0		<通信学習課題の内容> 別添「通信学習実施計画書」の通り <講義内容> ・人体各部の名称・骨格、関節、筋の働き ・中枢神経系、末梢神経系・バイタルチェック ・運動動作に関する基礎知識・身体の動きの基本(基本動作)	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通学	通信			
Ⅱ 生活支援技術の講義・演習						(50～55時間程度)	
	(4) 生活と家事	3	0	3		<p>&lt;通信学習課題の内容&gt; 別添「通信学習実施計画書」の通り</p>	
	(5) 快適な居住環境整備と介護	2	0	2		<p>&lt;通信学習課題の内容&gt; 別添「通信学習実施計画書」の通り</p>	
	(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	0	6	<p>&lt;授業内容&gt; ・整容に関する基礎知識 ・衣類着脱の介護 ・日常着の着替え ・和式寝間着の交換 &lt;演習実施方法&gt; ・DVDを活用し整容と着替えの一連の流れを理解する ・椅座位で行う日常着の着脱介助デモを行い、グループで実施。その後、留意点等をグループで意見交換し、安楽で安全なより良い方法を考え、手順書の作成を行い発表。 ・DVDを活用し和式寝間着の着替えの手順を理解する ・和式寝間着デモ（要介護5、右片麻痺を想定）を行いグループで実施。その後、留意点等をグループで意見交換し、安楽で安全なより良い方法を考え、手順書の作成を行い発表。</p>	
	(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9	0	0	9	<p>&lt;授業内容&gt; ・体位、姿勢の介護と同じ姿勢による弊害 ・体位、姿勢の介護の実際 ・移乗の介護 ・移動の介護（車椅子、歩行） &lt;演習実施方法&gt; ・DVDを活用し、様々な体位と介助法について理解を深める。 ・仰臥位でベッドをギャッジアップし、背中等にかかる引きつれや首にかかる負荷の確認後、どのようにしたら楽になるかグループで検討し発表。 ・なぜ背中が引きつれるのか説明し、背抜きデモ後、受講生実施 ・ギャッジアップの際、どのくらいの角度になったら枕を外し、戻す時にはどのくらいの角度になったら枕を入れるかをグループで検討し発表。その後解説。 ・ボディメカニクスの復習を行う。 ・水平移動デモを行い、受講生実施。 ・仰臥位→側臥位デモを行い、受講生実施。 ・上方移動デモを行い、受講生実施。 ・仰臥位→端座位デモを行い、受講生実施。 ・仰臥位⇄端座位⇄車椅子デモを行い、グループで実施し、その後、留意点等をグループで意見交換し、安楽で安全なより良い方法を考え、手順書の作成を行い発表。 ・車椅子での移動デモを行いグループで実施。その後、留意点等をグループで意見交換し、安楽で安全なより良い方法を考え、手順書の作成を行い発表。 ・歩行のデモを行い、2人一組で実施。</p>	
	(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	0	6	<p>&lt;授業内容&gt; ・食事に関する基礎知識 ・食事の介助 ・口腔ケアの支援技術 ・健口体操 &lt;演習実施方法&gt; ・DVDを活用し、食事に関する基礎知識の理解を深める。 ・食事の基本姿勢(座位)をグループ内で検討。不適切な姿勢についても体験する。 ・利き手交換(利用者役)、見守り(介護役)を2人一組で実施。 ・クロックポジション、半側空間無視の解説をし、2人一組で体験。 ・呑み込みの確認と体験を行ってから、側臥位での食事介助の一連の流れを実施。その後、留意点等をグループで意見交換し安楽で安全なより良い方法を考え、手順書の作成を行い発表。 ・模擬痰を使用した口腔ケア及び歯ブラシでの口腔ケアを2人一組で実施。その後、留意点等をグループで意見交換し安楽で安全なより良い方法を考え、手順書の作成を行い発表。</p>	
	(9) 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	0	0	7	<p>&lt;授業内容&gt; ・入浴・清潔保持に関する基礎知識 ・蒸しタオルでの清拭 ・フットケアの介護 ・手浴の介護 &lt;演習実施方法&gt; ・DVDを活用し、入浴の留意点や一連の流れ、清拭の方法や留意点を理解する。 ・蒸しタオルでの清拭のデモを行い、グループで実施。その後留意点を話し合いながら安楽、安全なよりよい方法を考え気づきを含め発表 ・フットケアと手浴のデモを行いグループで実施。その後グループで話し合い工夫や気づきなど発表</p>	

科目	細目	時間数					講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
		計	講義		演習	実習	
			通学	通信			
	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	0	6		<授業内容> ・排泄介助の基本 ・排泄の介護 <演習実施方法> ・DVDを活用し、排泄の仕組み、機能の理解、身体状態に合わせた様々な介助方法、陰部洗浄の手順と留意点について理解する。 ・ポータブルトイレ使用の一連の流れのデモを行い、グループで実施。その後、留意点等をグループで意見交換し安楽で安全なより良い方法を考え、手順書の作成を行い発表。 ・布おむつのあて方のデモを行い、グループで実施。その後、留意点等をグループで意見交換し安楽で安全なより良い方法を考え、手順書の作成を行い発表。 ・紙おむつ（パット含む）のあて方、おむつ交換（紙から紙）、陰部洗浄のデモを行い、グループで実施。その後、留意点等をグループで意見交換し安楽で安全なより良い方法を考え、手順書の作成を行い発表。
	(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	0	6		<授業内容> ・睡眠に関する基礎知識 ・安眠のための環境整備 ・ベッドの機能と取り扱い ・シーツの扱い方 ・オープンベッド ・臥床上のシーツ交換 <演習実施方法> ・シーツのたたみ方、オープンベッド、臥床上シーツ交換の説明とデモを行った後、グループに分かれ実施。 ・演習したことにに関してグループ発表を行う。
	(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	5	3	2	0		<講義内容> ・老いと衰えの理解とその対応 ・ターミナルケアの実際 ・看取りの実際とグリーフケア
Ⅲ 生活支援技術演習							(10～12時間程度)
	(13) 介護過程の基礎的理解	6	6	0	0		<講義内容> ・介護過程の目的と意義 ・介護過程の展開 ・介護におけるチームの役割と重要性 ・介護過程の展開の実際 ・「介護過程の展開」について事例を提示し、グループディスカッションを行う。
	(14) 総合生活支援技術演習	6	6	0	0		<授業内容> ・要介護者、家族介護者への支援 <演習実施方法> ・「要介護者」の事例を提示し、グループディスカッションを行い、発表。
10	振り返り	(指導目標) (1) 研修全体を振り返り、研修を通じて学んだことについて再確認を行う。 (2) 研修全体を振り返り、次のステップへ向けての課題と一人一人の将来像がイメージできる。					
	(1) 振り返り	3.5	3.5	0	0		<講義内容> ・振り返り ・通信課題を使用し、学習内容を確認する。 ・講師からのフィードバック、アドバイスを行う。
	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	0.5	0.5	0	0		<講義内容> ・質の向上と人材育成



通 信 実 施 方 法

1	問題及び解答	別添のとおり
2	通信実施科目	
	科目番号	時間数
2	(1) 人権と尊厳を支える介護	3.5
	(2) 自立に向けた介護	4
3	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1
	(2) 介護職の職業倫理	1
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1
4	(2) 医療との連携とリハビリテーション	3.5
	(3) 障害者自立支援制度およびその他制度	4
5	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3
6	(2) 高齢者と健康	3
7	(1) 認知症を取り巻く状況	1
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1
	(4) 家族への支援	1
8	(1) 障害の基礎的理解	1
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	0.5
9	(1) 介護の基本的な考え方	2.5
9	(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	1
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	1
	(4) 生活と家事	3
	(5) 快適な居住環境整備と介護	2
	(1 2) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	2

<p>3 合格の基準</p>	<p>課題 択一形式・記述式 100点満点</p> <p>60点以上を「合格」とする。          基準を満たさなかった場合は、再評価を実施するため、同一課題を配布する。          なお、再提出日は、再提出課題配布もしくは発送日から起算して1週間以内とする。          質問は、スクーリング時に講師に質問するものとする。</p>
<p>4 提出方法（回数及び期限）</p>	<p>提出回数 3回</p> <p>提出期限 添削課題は授業の1日目、2日目、3日目にて配布する。          1回目の課題は4日目、2回目の課題は6日目、3回目の課題は9日目に提出する。</p> <p>図解)</p> <p>配布 1日目 提出4日目          1回目 締切</p> <p>配布 2日目 提出6日目          2回目 締切</p> <p>配布 3日目 提出9日目          3回目 締切</p> <p>10回目 最終締切</p>

## 修了評価の方法

### ◇修了評価者

通学日程15日目の担当講師

### ◇評価方法及び合格基準

#### 1 出題範囲

「(2) 介護における尊厳の保持・自立支援」から  
「(9) こころとからだのしくみと生活支援技術」までとする。

#### 2 出題形式

五肢択一形式及び記述形式とする。

#### 3 出題数

択一問題20問(配点80点)、記述式問題2問(配点20点)  
全問正解:100点満点

#### 4 合否判定基準

60点以上

#### 5 不合格になったときの取扱い

結果発表後、担当講師による補習のうえ、修了評価当日に再試験を実施する。  
再試験は最大2回まで実施する。  
したがって最終試験の結果、不合格となった者は修了できない。  
なお、補講及び再試験の費用は無料とする。